

平成21年度 自己評価書・学校関係者評価書(様式)

【別紙1-2】

鈴鹿市立天名小学校		NO.				
評価項目	本年度の活動(具体的な手立て)と指標	達成状況	成果と課題	学校関係者評価	今後の改善点	
学力保障	授業改革 授業研究	①「きく」「はなす」力を育成する。 【評価指標】児童アンケート2・3 ②反復練習などで、学習内容の定着を図る。 【評価指標】児童アンケート5	①児童アンケート2より、人の話を聞く時、相手を見てきちんと聞けますかの問いに、84%に児童が当てはまると書いている。②授業中発言しようとしていきますかの問いに児童は79%と低い	①各クラスで「声の物差し」を掲示したり、「話名人」「聞き名人」として、子どもたちに意識付けができてつある。教師間で意思の疎通を図りながら、コミュニケーション力の向上を目指している。	①「声の物差し」「聞き名人」の取り組みは大変良いと思う。これからはコミュニケーション力が大切な時代だと思うので、日常の活動場面で話す力、聞く力の向上を目指して取り組んでほしい。	・公開授業をして各学年の様子や取り組みを学べて非常に良かったと思うが公開時期に偏りがあったので、1年間を考えた計画を作成していきたい。 ・朝の学習や帰りの会等で発表の機会を多く持ち、話す力・聞く力を高めていきたい。
	少人数指導	①少人数を生かして一人ひとりの学習状況を把握し、それに応じた個別指導をする。 【評価指標】児童アンケート1・5	レポート研修等で、一人ひとりの学習状況を把握し、学習ボランティア、先生の支援をしている。課題や宿題を最後までやり上げますかの問いに、94%の児童がはいと答えている。	個別の学習状況を各担任が把握し、個別指導に活かしている。特別支援コーディネーターを中心に指導計画を作成し、指導に役立っている。	①少人数クラスを最大限生かした学校運営と共にきめ細かい指導を今後もやっていってほしい。	・各クラスとも少人数なので、個に応じた指導を徹底していきたい。 ・特別支援コーディネーターを中心に指導計画を充実させ指導に活かしていきたい。
	学習ボランティア活用	地域の人材を活用して、教育活動の充実を図る。 【評価指標】地域人材の活用状況	米づくり(もみまき・田植え・稲刈り・脱穀・モミすり)延87人 町探検延13人 学習ボランティア延27人	米づくりの体験では48名の方に登録いただき支援。、学習ボランティアも6名の方に登録いただき月・火・木曜日に各クラスで支援。地域探検・朝市・昔遊びの支援。	①地域との関係、関連は非常に良いと思う。子ども達にもボランティア活動の意義を感じ取ってほしい。地域には多様な人材がいますので子ども達の為に活かしてほしい。	・学校支援地域本部事業のコーディネーターと連携をとり「ふるさと先生」「学習ボランティア」をはじめとするボランティアを充実させていきたい。
	補充学習	夏休み等を利用して補充学習を実施する。 【評価指標】開催日数	7月27日から4日間開催した。 参加児童延56人 参加教師延15人	夏季休業中の前半に補充学習として4日間開催できたことは良かった。できれば夏休みの後半にも開催したい。また、公民館と連携して絵画教室やうどんづくりを開催できたことは良かった。	・先生方が一人ひとりの子ども達の事を考え、指導していただいているのはありがたい。子どもにとって大事な学習ですので積極的に取り組んでほしい。	・今年度4日間実施したが、次年度も低・中・高と分けて夏休みの最初と最後に実施したい。また、放課後の補習等も児童の実態に合わせて充実していきたい。
	キャリア教育(すずか夢工房・職業体験学習)	鈴鹿夢工房等などを活用し、外部講師を招いた体験活動を実施する。 【評価指標】実施回数	鈴鹿夢工房1回 クラブ活動(伊勢型紙)5回 観劇1回 4年生平和教育1回 安全教室1回 防災教室1回	鈴鹿夢工房は、1回の活用だが、地域の人材を招いて、クラブ活動(伊勢型紙)の指導、町探検、朝市の話、鈴鹿の戦争体験の観劇(麦わら帽子の会)を活用している。	体験学習は近い将来必ず生きてくる大切な教育だと思います。少しずつでも継続をしていってほしい。	・体験学習は各クラスで子ども達の実態や興味関心に応じて取り組みをすすめているが、1年間を見据えた計画を作成していきたい。
	環境教育をすすめる。	①リサイクル活動として、ペットボトルのキャップや、ブルトップを集める。【評価指標】キャップの数 ②電気・水道の使用量削減に努める 【評価指標】EMSと児童アンケート7	4月から54764個、68人分を収集。 ブルトップ9kg。電気は昨年度より11%減少・水道は0.3%増加。 児童92%取組んでいる。	①ペットボトルのキャップ収集やブルトップの回収が増加するように、省エネ委員会の活動や、児童会との連携を図り、各家庭へ呼びかけを増やしていく。②鈴鹿EMSの内部監査で子どもや教師の意識が高いと言われたので、もっと高めていきたい。	エコ時代に即応した教育であり、毎日の生活の中で大切なことを身につけられるようにこのまま進めていってほしい。	・子どもたちは省エネの大切さについては興味関心が高く、実践しているが保護者や地域に周知し広げていきたい。企業とのコラボで省エネ活動を充実させていきたい。
生徒指導	①あいさつを習慣づける。 【評価指標】児童アンケート9 保護者アンケート ②チャイムで素早く行動できる。 【評価指標】児童アンケート10 ③生活習慣の定着 【評価指標】早寝早起きの標語	児童アンケートでは、92%の児童があいさつをしていると答えている。 ②チャイムで行動できるかの問いに、93%の児童がはいと答えている。ほとんどの児童が朝ごはんを食べている。	①あいさつは、キャリア教育の重要な要素であるので、地域の人や、友だち同士でも自ら進んであいさつが交わされるように指導していく。②チャイムで行動できる児童が増えてきている。③青少年課と連携して早寝早起きの定着を図りたい。	・大人社会においても希薄になりつつある「あいさつ」を学校と地域が一体となりあいさつ運動を盛り上げたい。そのためにも地域でできることで応援していきたい。	・児童会を中心に「あいさつ運動」を推進していきたい。また、教職員自ら「あいさつ運動」に主体的に取り組み、地域との連携を図りながら推進していきたい。学校だより・学級通信・保護者会で早寝早起き朝ごはんの基本的な生活習慣のたいせつさを周知し徹底していきたい。	
人権教育	①仲間づくり・途切れない指導に取り組む。レポート研修・人権総合学習を行う。【評価指標】回数 ②縦割り活動を通じて異学年交流を行う。 【評価指標】児童アンケート8 ③いじめの相談に対し、解決に向けて取り組みをしていく。 【評価指標】いじめアンケート追跡調査	レポート研修は、現在2回であるが、3学期に3回を予定している。 ②縦割り班は楽しいですかの問いに、低学年では100%、高学年では、90%がはいと答えている。③いじめアンケートを活用し、学級活動に活かしている。	①レポート研修・研究授業等、計画的に実施している ②縦割り班の活動では、児童アンケートにあるよう低・高学年とも満足しているが、高学年に責任を持ってやり遂げたという充足感や自覚を持たせたい。 ③いじめアンケートだけではなく、教職員のアンテナを高くして対応していく。	・仲間づくり、友だちづくりに欠かせない教育である。人の痛みがわかる教育を推進してほしい。いじめは永遠のテーマと思う。 ・人権教育は十分に指導していただいているので、人を大切にすることを土台に、善悪の判断やマナーを守る等の、道徳教育にも十分な時間を使い指導していってほしい。	・人権教育の充実を図り、子どもたちに考えさせる、教えることを明確にし、一人ひとりを大切にすることを教育を推進していきたい。 ・道徳教育の充実を図ってほしい。	
開かれた学校	①米づくり・天名マイふれあいフェア等、地域の思いに触れる活動を推進する。【評価指標】児童アンケート6 ②授業公開をする。【評価指標】開催回数 ③情報発信をしていく。【評価指標】学校だより、学年通信の発行回数・ホームページの更新回数 ④地域と共に子どもを育てる取り組みをする。 【評価指標】開催回数	①ふるさと先生に教えてもらうのは楽しいと低学年においては100%高学年においては、97パーセントがはいと答えている。②授業公開開催回数 ③学校だより、26回発行④米づくり・観劇・絵手紙等8回	①体験活動を通じて、保護者の学校への理解を深め、地域と共に子どもたちの心の教育を推進していく。 ②4・5限目と授業公開をして保護者は喜んでい ③学校だよりや学年通信をどの学年でも多く発行し、その学年通信を閲覧することによって職員意識が高まっている。 ④今年度はインフルエンザで中止にしたが、地域の方と連携して、判断できた。	・保護者・地域の人への理解・協力を得る取り組みは素晴らしい事だと思う。これからも継続してほしい。 ・学校だより、学級通信等で学校の情報を発信していることは良いと思う。 ・本年度授業参観は4限目・5限目であったので参観しやすくなって良かった。	・学校支援地域本部事業を活用して、地域・保護者の方の理解、協力を得て学習ボランティアやふるさと先生と共に地域に根ざした学校づくりに取り組んでいきたい。 ・メール配信を有効に活用していきたい。 ・ホームページの更新回数を増やしていきたい。	
安全教育	①登下校の安全を確保する。 【評価指標】防犯教室の開催。登校指導、下校指導の回数、ホイッスルの携帯率 ②自転車の乗り方指導をする。 【評価指標】交通安全教室の開催・ヘルメットの着用率 ③学校での安全教育 【けがの程度頻度・インフルエンザ予防】	①万引防止の教室1・2年生で開催。登下校の指導管理職は毎日、職員は年2回。ホイッスルの携帯100%②交通安全教室の開催10月③6月から毎朝の検温を開始。健康センター6件	①防犯教室の実施を3学期に考えている。ホイッスルはランドセルについて携帯している。 ②交通安全教室を開催し、ヘルメットのかぶり方等の指導を受けた。 ③健康センターにかかったけがは現在6件で、昨年度も6件。また、インフルエンザ予防で、毎日の検温(保護者の協力)や換気、手洗いがい等の指導を養護・担任だけではなく、保健委員会を使って周知している。	・交通安全、防犯に関する教育がいかに大切か、我々大人が反省し、ともに勉強していく必要があると思う。交通事故撲滅には、地域社会との協働作業が大切で、根気強く指導していってほしい。地域でできることは応援していきたい。	・防犯教室や交通安全教室等、年間計画をしっかり立てて実行していきたい。 ・今年度取り組んだインフルエンザ予防の毎日の検温や換気うがい等を継続して行ってほしい。 ・地域、保護者と連携して「天名っ子パトロール隊」の活動を活発にしていきたい。	